

平成 29 年度 第 1 回田原市総合教育会議 議事録

1 日時

平成 30 年 2 月 5 日（月） 午前 10 時～午前 11 時

2 場所

田原市役所 南庁舎 4 階 政策会議室

3 内容

- (1) 学校全体配置計画見直しについて
- (2) 田原市いじめ問題調査委員会及び田原市いじめ問題再調査委員会に関する条例について

4 出席者

市 長	山下 政良
教育委員会 教育長	花井 隆
教育委員会 教育長職務代理	山本 明子
教育委員会 委員	金田 真也
教育委員会 委員	太田 孝雄

5 欠席者

教育委員会 委員	土井 真紀江
----------	--------

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

企 画 部 長	石川 恵史
教 育 部 長	大根 義久
企画部企画課長	大羽 浩和
教育部教育総務課長	伊藤 英洋
教育部学校教育課長	杉田 哲利
企画部企画課主幹	鈴木 真喜生
教育部教育総務課課長補佐兼係長	小久保 義則
教育部教育総務課主任	彦坂 幸子

7 傍聴人

なし

8 協議の経過

(企画部長)

時間となりましたので、ただいまから平成 29 年度田原市総合教育会議を始めさせていただきます。なお、本日、土井真紀江委員におかれましては、所用により欠席されておりますので、ご了承ください。それでは、始めに、山下市長からご挨拶を申し上げます。

(市長)

それでは皆さん、おはようございます。総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

昨日、5年ぶりの渥美半島駅伝が再開されまして、無事に済んだということですが、距離は、男子が 26.5km、女子が 16.1km ということで短いのですが、かつては、渥美半島先端からずっと走ってくるという大会でした。事故でこうなってしまったということですが、再開

でき、将来的には昔のコースで走って行きたいという希望を持っていますけれども、第一歩がスタートできたので良かったと思います。

また、今年はイベントづいていまして、今年という言い方をしますが、年度は来年度、9月に、全日本の女子のソフトボール大会、そして、明るく日からワールドサーフィンゲームスという、こういった混んだ日程の中で、いろいろ大会が入っています。教育としては、スポーツの分野ですけれども、スポーツを通じて田原がアピールできる場所が今年あるということで、期待をしております。また、皆様方にも是非ご協力いただきたいと思います。

今日は、議題が2つございますが、よろしくご審議いただきたいと思います。

(企画部長)

ありがとうございました。

それでは、議事につきまして、進行は本会議の議長であります市長にお願いいたします。

(市長)

それでは、始めたいと思います。学校全体配置計画見直しについて、事務局から説明をお願いします。

(教育総務課長から (1) について説明)

(市長)

ただいま、学校全体配置計画の見直しについてということで、事務局から説明がありましたけれども、これにつきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

これは初めて出したんですか。

(教育総務課長)

教育委員さんには、先日、教育委員会で説明させていただきました。

(太田委員)

すみません、お願いします。

以前の計画は、適正規模でない小規模校は統合するというような方向でしたが、資料の左下、「計画の方向性」の中の「小規模校の教育の充実」がうたわれていまして、その中の「連携集合授業等」は、具体的にどのような授業を想定されているのかお聞きしたいと思います。

(学校教育課長)

それぞれ人数が少ない中で、体育とか一緒にやれるものを、ある学校に移動して集まって一緒に授業を進めたり、ICTを使って情報を交換しながらといった連携を考えています。少人数だからということでなくて、小規模の学校同士が連携して、集まってできることを工夫してやっていきたいと考えています。

(太田委員)

その教育効果ということでは、ただ小規模校が集まればいいというものでもないものですから、ねらい、目的を考慮してということによろしいですか。

(学校教育課長)

はい。やはり、集団で、たくさんの中で育まれるものがありますので、それを見極めて、集団でやったほうが良いといった時に、そういうものを取り入れていくことを考えています。

(教育長)

今、中学校の統合の準備で、伊良湖岬中学校が福江中学校に行く段階で、そういうことを模索しています。

泉中学校と赤羽根中学校においては、今年度、合唱コンクールの交流をし、赤羽根の文化ホールで一緒に行いました。それから、芦ヶ池で校内マラソン大会を、両校一緒にして、それぞれ代表チームを含めてやりましたら、ゴール付近でデットヒートがあったりと非常に盛り上がったということです。

両行事ともに、今までと違って仲間が増えた感じで盛り上がりました。

小規模校対策については、一人ひとりが活躍できるように、各学校だけでも活躍する場は少人数であればあるとは思いますが、2校を合わせることによってどんなことができるかなど、バスで行ったり来たりも含めて方向性も探りながら、体育とか音楽とか、いろいろ可能性もあるのではと期待をしております。

(市長)

連携というのは、通常の授業ではなかなか難しいと思いますが、スポーツ、文化活動、また、指導会みたいなものも可能性としてはありますね。

(教育長)

現在、統合して、通学が毎日1時間近くかかってしまうところもあり、負担もあると思います。

例えば、第4週は交流授業で、4週間に1回はバスが走るみたいなことでも、財政面も含めて成果はあるのではないかと。すぐ統合しなくても、いろいろな経緯をたどって、最終的に統合みたいな形になるのが、自然な流れではないかと思えます。

(山本委員)

一つ目の質問ですが、資料1の左下の、適正規模「1学級20人程度が望ましい規模。ただし120人未満や6学級未満は直ちに統廃合ではない。」これは理解したのですが、右にいきますと、新たな適正配置の基準として、過小規模校の、「小学校5学級以下、中学校2学級以下」、これは複式学級が始まる学校になり得るということで、その都度、見直すということでしょうか。

もう一つ、それに関連することで、小中一貫教育の考慮、複式学級、いろいろの中には案がありますが、その辺がどうなるのか見えないんです。今、現在は、小学校5学級以下、中学校2学級以下になるところはないと思いますが、今後、何年後になるのか、わかっていれば教えてください。

(教育部長)

新たな適正規模の基準は、従来と変わらず、「望ましい」という考え方になっています。

小中学校のいずれも、学級数、児童数、生徒数、その基準を満たさない学校であっても、直ちに統廃合の検討に入るのではなく、右上にございます「適正規模の実現に向けたフローチャート」に基づいて、学習環境の改善に向けた方策を検討したり、実施していくということです。児童生徒数の減少傾向が見える、予測されるということであれば、検討段階に入りながら、できる限り、小規模校の特認校であるとか、連携集合授業の展開をしながら、小規模校のデメリットの改善に向けていくという考え方になっています。

そうしたことを実施することによって、その後の児童生徒数の推移も見守りながら、柔軟に対応していきたい、と。柔軟に対応するということは、すぐさま統廃合を検討することではないと考えています。それは、実施計画のイメージとして、右下に書いてございます。半分より上が、児童数、学級数ということで、子供たちの数に応じた適正規模、適正配置という内容。下が、長寿命化、建物の更新の関係です。

つまり、建物を更新する際に、ロードマップに落とし込んで、どのタイミングで長寿命化、中間の改修が出てくるのか見極めて、その上で、子供たちの数によって、検討する時期を定めていきたいということです。できる限り、小学校は残してまいりたいという考え方で、適正規

模、適正配置の計画を作ろうという考え方です。ご理解をいただきたいと思います。

(山本委員)

複式学級が何年先にあるのかが、心配なのですが。

(教育部長)

複式学級については、出生の関係で課題が発生する学校がございます。亀山小学校は可能性があるかと思っています。ただ、複式の基準は、1・2年生が7名、3・4年生、5・6年生は14名という基準がございますので、その辺りがこれから変化していくのか見守りながら、小規模特認校など検討する形をとりたいと思っています。

(山本委員)

フローチャートのように検討を重ねるということですね。

(市長)

複式になりそうなどころはありますか。

(教育部長)

今の出生の状況を見ると、可能性はあると思います。

(市長)

0歳児までの人数を見て、今のところ、複式の可能性は。

(教育部長)

平成29年4月現在ですけれども、0歳児が10名、1歳児が5名、2歳児が8名、3歳児が6名。ただ、2学年になったタイミングが、例えば、3・4年生になった場合、3歳児が6名、4歳児が5名ですので、可能性はありますが、次の年が複式でなければ解消されます。特例がございますので、こういった傾向がずっと続くということになると、可能性が出てくると。

(市長)

私が学校教育にいた時、大草小学校が複式をやっていたんですね。複式がなかなか解消できなくなってしまふんです。大草団地を作ったので良かったんですけども。そういうのが続いていく可能性が高いとなると、いろいろ考えなければと思います。今すぐという話ではありませんが。

(教育長)

前は、学校全体配置計画。配置の計画だったので、それでは対応できないな、ということで、今、未来創造計画にシフトしてきています。

(教育部長)

一点、補足させていただきます。複式の関係で、隔年複式解消制度がございます。この年度には複式になりますが、その次の年度には複式にならないという話になると、単式学級を保障するという制度もございますので、状況を見極めないといへない、ということでございます。

(市長)

それは、本来は複式だけれども単式でも良い、という制度ですか。

(教育部長)

例えば、小学校の3・4年生、5・6年生において、毎年度、複式学級と単式学級が交互するような形が生まれてまいりますので、そうした編成学級の変動が見込まれる場合には、配慮をして単式を保障するという制度がございます。

(市長)

そういうのを使えば、今のところいけそうな感じですね。

他にございますか。

他にご意見も無いようですので、次に、田原市いじめ問題調査委員会及び田原市いじめ問題再調査委員会に関する条例について、事務局から説明をお願いします。

(学校教育課長から(2)について説明)

(市長)

ただいま、事務局から説明がありました。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(太田委員)

いじめによる重大事態は、教育委員会によって判断され、設置されるということですが、いじめられている本人だとか、保護者だとかそういった方々が、いじめ問題調査委員会に調べて欲しいという要望について、うたわれていません。要望を受けて、重大事態と判断されれば設置されるのか、要望は加味されないのか、その辺りはどうでしょうか。

(学校教育課長)

保護者等の要望も含め、その事態のいじめの様子なども含めて、判断していきたいと思っておりますので、要望があっても聞かないということではなく、その場合、場合に応じて対応していきたいと思っております。

(市長)

本人や家が言ってくればわかりますが、家も言っていない、学校が重大事態と思わなければ、重大事態ではない、と。難しいところとは思いますが、

他にいかがですか。

調査委員会と、再調査委員会とメンバーが違うと思いますが、場合によっては二つやるというケースもあるということですね。

他によろしいですか。

ないようですので、では「その他」で、何かありましたらお願いします。

(教育長)

時間があればということで。

福井県で、去年の3月、中2の自殺がありました。中学校も一校で少人数の小さな町で起きた案件で、重大事態ということ。自殺から半年経ったところで、母親の手記が新聞報道もされ、状況としては、校長先生が一身上の都合で退職したと。

一番の問題点は、学校の先生による子どもへの叱責ということで、教員によるいじめに近いのではないかと。体罰ではなく、言葉による暴力のようなものかな、と。

文部科学省も敏感に反応して、全国通達で「特性や発達段階を十分考慮せず、いたづらに注意や叱責を繰り返すことは、児童生徒を精神的に追い詰める」としています。福井県が抱えている、この中に潜んでいる問題としては、学力テスト等で全国トップにという県内一斉の強い流れの中で、先生たちは、特に、小さな学校は一人の成績が平均点に影響するので、日常的に厳しくなってしまうのではと思います。

こういう事例も含めて、子ども同士の遊びの延長なのか、いじめなのか、といった見極めや、先生の横で起きていることが知らないままになってないか、校長先生も状況はわかっていたのか、校内の様子を職員全体で共有しながら、意識を高めていくことが大事かなと思います。

件数の認知についても、数が増えています。解消率を100%に近づけるようがんばってもらいたいと思います。教育長としても、指導の仕方について、先生たちには、より子どもに寄り添ってほしいと伝えたいので、委員の皆さんのご意見もございましたら聞かせていただきたいです。

(金田委員)

生徒から、いじめられていると言われるケースは、たくさんあるんでしょうか。

いじめで報告があるケースは、本人からが多いんですか、少ないんですか。

(学校教育課長)

本人というよりも、保護者とか同級生とかが多いかなと思います。子どもたちの様子を、先生方も忙しい中で寄り添って見ていかないと、特に、中学生は表面的には良くて中にも抱えているものがあるので、その辺りを見ていかなければと思っております。

(山本委員)

先生の多忙化とか部活とか、余裕の無い職場環境が、生徒の様子に気づかずに済んでしまうのでは。特に、若い先生、周りの見えていない先生で、そうなる可能性も無いとは言えないので、多忙化と併せて、先生の環境についても考えなくてはならないと思いました。

(教育長)

朝練がなくなったところを少し。

(学校教育課長)

多忙化については、県も取り組んでおりまして、例年11月の、1回だった在校時間の調査が、今年3回になりまして、6月、11月、2月と行ってきておりますけれども、田原市内の先生方も、全国レベルで多忙化の数値を示していましたが、11月、2月と、だんだん、80時間以上の先生方の数は減っております。しかし、これをゼロにするとすると、もっと工夫が必要だと思っております。

それと、今年度4月から、校長会の申し合わせで、中学校の朝の練習が無くなりました。そして、1年ほど経つわけですが、校長先生方に様子を伺うと、先生方の朝の余裕が出てきたと。朝のうちに教室に行って子どもの様子が見られるようになった、という報告。それから、家庭からは、子どもたちがゆっくり朝食を食べて学校へ来られるという、いい報告を受けております。

これが普通になっていって、余裕が生まれてくれば、さらに、先生方も自分で時間を作っていくという変化が見られてくるかなと思っております。

(金田委員)

校務支援システムについてはいかがですか。

(学校教育課長)

校務支援システムを入れていただいて、これでまもなく1年経つわけですが、先生方も全ての機能を使いこなすまでには、まだまだですけれども、その中で出席簿とか成績関係については、大変便利になって、手数が少なくて済むということです。それから、掲示板の機能というのがありまして、いろいろ、先生方が他の先生に連絡しなければいけないことが、掲示板に打っておくとそれを必ず見ていただければ、時間が短く済みますので、朝の打合せ等が10分か

かったのが数分になったとか、そういう報告も伺っております。

まだまだ有効な機能はありますので、市教委にも担当がおりまして、他の3市と情報を交換しながら、より良い使い方を模索しておりますので、また、良い報告ができるかと思いますが、しっかり使っていきたいと思っております。

(市長)

その他、よろしいですか。

それでは、ないようですので、本日の議事は全て終了いたしました。ありがとうございました。

以上をもちまして、田原市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

今日は本当にありがとうございました。

(閉会 午前 11 時)